

# 目次

凡例	iv
まえがき	1
第一章 『源氏物語』への曙光——光源氏の面影	
一 八瀬の桜	3
二 宣風坊の池波	8
三 小倉山の紅葉	11
四 山科勧修寺の月	15
五 明晰さと人格	28
六 春日の里	37
七 伊都内親王の願文	42
八 紫草の世界	45
第二章 文芸復興への光——和歌世界の拡充	
一 醍醐王朝の文学	49

二	雲林院の行幸	52
三	寛平の御遺誠	54
四	失脚と左遷	60
五	魂の故郷へ	66
六	勤修寺流の人々	72
七	定方の娘たち	77
八	兼輔の子女	83

### 第三章 『源氏物語』への逆光——政変の渦潮

一	若き日の公任	97
二	兼家の権勢	106
三	道心と世俗	109
四	花山院の落飾後	123
五	少女、紫式部	128
六	浮舟の身	139
七	宿世と岐路	153
八	越の海山	160
九	めぐりあい	172

十	突然の訃報	182
十一	無化された過失	185
十二	新しい一条院内裏へ	199
十三	人を魅了する力	208
十四	「日記」の深層にあるもの	216
十五	山桜の述懐	241
十六	隆姫 引き継がれ行くもの	244

### 終章 『源氏物語』花の原点

初出一覧	出典目録	253
系 図		256
あとがき		259
参考文献		261

## 凡例

一、本文中に登場する和歌や詩は、おもに以下からの引用による。ただし、私に一部表記を改めた所もある。

『新編国歌大観』（角川書店）より、「紫式部集」「発心和歌集」「大斎院前の御集」「伊勢大輔集」「公任集」「為頼集」「貫之集」「和泉式部集」「御堂関白（道長）集」「三条右大臣（定方）集」「拾遺抄」「拾遺集」「後拾遺和歌集」「新勅撰集」「兼輔集」「朝忠集」「業平集」「伊勢物語」「古今和歌集」「拾遺集」「菅家文章」「菅家後集」「本朝麗藻」。

『中国名詩選』（松坂茂夫編、岩波文庫）その他の『白氏文集』『莊子』などは通行本文を参照した。

なお、本文中に登場する歌で、（著者作）と表記のあるものは、本書の著者が、登場人物の気持ちを想像して詠んだ歌である。

一、本書は研究の領域において、史実を踏まえ創作を試みたものである。

一、登場する人物で、名前が不明である場合は、仮説としてその人物名を提示した。

一、身分の高い出自である場合、又は物語の女主人公になりうる立場・場面では、女むすめあるいは女おんなとし、普通の親子関係を示す「娘」と区別した。

一、本書を成すにあたって、以下の自著から、各冊二割程度を抜粋し、本書をまとめた（本書掲載順）。

『源氏物語「みやびの世界」序章』（書肆フローラ、二〇〇七年）、『源氏物語花蔭 勸修寺家の人々』（書肆フローラ、二〇一〇年）、『源氏物語花摘』（近代文芸社、一九九六年）、『源氏物語新花摘』（近代文芸社、一九九八年）、『源氏物語花摘 完』（近代文芸社、二〇〇〇年）、『源氏幻想 王朝の影絵』（書肆フローラ、二〇〇三年）。